

2015年度 企業現場人材育成事業（インターン実習プログラム）

日韓産業技術協力財団 千吉良泰三

日韓国交正常化50周年を迎えた2015年、今後50年の日韓関係を担う若者の育成・交流が重要であることに鑑み、日韓産業技術協力財団は韓国の大学生を対象とした『企業現場人材育成事業』（インターン実習プログラム）を新規に立上げた。

本事業は、韓国の大学生を夏休みの期間を利用して、1ヶ月間、在韓日系企業で実習させ、企業人としての経験をさせることにより、日系企業の仕事の進め方やノウハウを学ぶと共に、日系企業の韓国に於けるCSR活動を理解し、知日派の学生を育てることを狙いとしました。また、優秀な韓国の大学生を日系企業に紹介していくことも目指した。

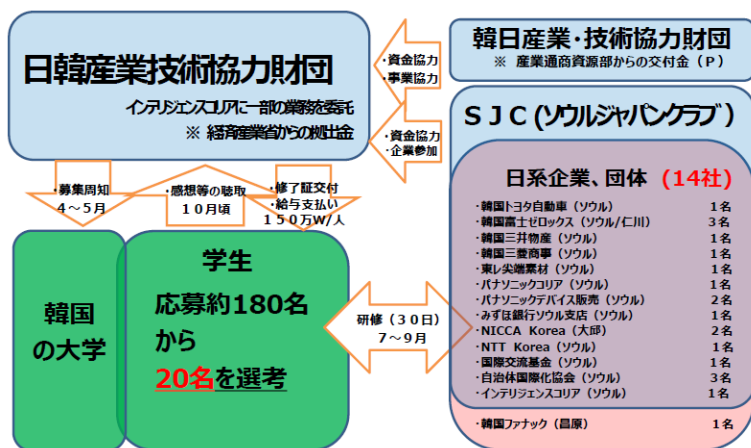
□企業募集

SJC（ソウルジャパンプラブ）、釜山日本人会、各地の企業連合会にご協力を頂き、4月から大学生を受入れて頂く企業の募集を開始した。初めての事業でもあり、受入れ企業を集めるのに予想以上に難航した。SJCの皆様のご助力を頂き、最終的には14社の在韓日系企業で20名の大学生が職場実習を受ける機会を得た。

□実習生の募集

実習生は5月から韓国34の大学で募集を開始した。5月末までに約180名の大学生から応募があり、6月からは書類と面接による選抜を行い、また、学生の希望職種と企業側の受入れ職場とのマッチングを図っていった。

【事業の構成図】



【事業の仕組み】



□本事業の構成

本事業は「オリエンテーション」「企業実習」「フォローアップ研修・修了式」の3部構成とした。「実習前」の7月上旬に「オリエンテーション」を開催し、企業人としての心構えや業務遂行における注意事項等について説明し、雇用手続きを行った。

「実習中」は全ての受入れ企業を訪問し、職場先輩から実習生の仕事の様子を伺い、実習生との「個別面談」を行い、フォローしていった。

「実習後」の9月下旬には「フォローアップ研修会・修了式」を行い、実習で得た貴重な体験を全員で振り返り、共有化した。また、日系企業の人材育成、チームワーク、問題解決などの仕事の進め方についてもグループ討議と発表形式でレビューした。最後に、実習生一人一人に両財団からの修了証を手渡した。

【オリエンテーション】



企業人としての心構え



雇用手続き

【企業実習】



実習の様子

【企業実習】



受入れ企業の訪問



実習生と職場視察



実習生との個別面談

【フォローアップ研修・修了式】



グループ討議(体験の共有)



成果発表



修了証の授与

□企業側の印象

実習中に企業訪問してお会いした社長や責任者の方からは「良い学生を送って頂き、職場の良い刺激になった」等のコメントを頂いた。また、「採用試験を受けるようにすすめた」「入社をすすめた」との企業もあり、ほとんどの企業で好評であった。実習生の職場先輩からは「多忙でかまっていられない時は自ら仕事を拾いに来た」「前向きに明るく仕事をしていた」「意欲的に学ぼうとしていた」等のコメントを頂いた。

□学生の感想

韓国では実習途中で来なくなる学生も多いとのことで、勤務実績を毎日報告させるなど一人一人のフォローを行ったが、実習生全員が突発欠勤や途中放棄もなく、無事実習を終了した。実習中に面談した殆どの学生が「実習前に考えていた内容と異なり、人生にとって多くのことを学べた」「仕事の意味とその大切さや知った」「企業は利益至上主義と思っていたが、社会への役割などを学んだ」等の感想を生き生きと話していた。

実習後のフォローアップ研修や報告書でも「就職前にこのような実務経験を持って、これからの人生にとってかけがいのない経験になった」「仕事はできなかったが、それ以上に人生にとって貴重な体験をした」「人生観が変わった」等の感想が多く寄せられた。

【参考資料】

2015 年企業現場人材育成事業（インターン実習プログラム）		発行日	2015.9.23
実習報告書		発行元	公益財団法人 韓日産業・技術協力財団
		発行部局	企業教育部
		発行部局長	佐々木 幹夫
インターン先	韓国企業名	実習期間	2015.8.24～2015.9.23
実習生	氏名	所属	〇〇大学
<p>韓国企業現場実習報告書</p> <p>韓国企業現場実習（インターン実習）プログラムは、公益財団法人韓日産業・技術協力財団が主催し、4 機関（インターン実習推進委員会）が主催する事業です。本報告書は、実習生が実習先企業で学んだことや、感じたこと、そして、今後のキャリアについて考えたことを報告するものです。</p> <p>8 月 24 日の朝、本報告書は、本報告書（韓国企業現場実習）プログラムの開始式で発表されました。本報告書は、本報告書（韓国企業現場実習）プログラムの開始式で発表されました。本報告書は、本報告書（韓国企業現場実習）プログラムの開始式で発表されました。</p> <p>本報告書は、本報告書（韓国企業現場実習）プログラムの開始式で発表されました。本報告書は、本報告書（韓国企業現場実習）プログラムの開始式で発表されました。本報告書は、本報告書（韓国企業現場実習）プログラムの開始式で発表されました。</p> <p>本報告書は、本報告書（韓国企業現場実習）プログラムの開始式で発表されました。本報告書は、本報告書（韓国企業現場実習）プログラムの開始式で発表されました。本報告書は、本報告書（韓国企業現場実習）プログラムの開始式で発表されました。</p>			

実習生の報告&本事業への評価



修了証書

TONE SHEET (研修社員研修記録簿)									
研修生名	研修先	研修期間	研修内容	研修成果	研修感想	研修評価	研修評価	研修評価	研修評価
氏名	研修先	研修期間	研修内容	研修成果	研修感想	研修評価	研修評価	研修評価	研修評価
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									

勤怠管理シート

□事務局所感

この様に学生が感銘した背景には、実習生の殆どの方が、企業の一員としてOJTを受けた経験がなかったためだ。今回は、全ての実習生に職場先輩を付けて指導頂いた。学生も仕事に興味を持ち、職場の信頼を得ようと一生懸命に頑張った。その結果、実習生がこれまでと違って多くのことに気づき、感銘を受けた。

実際、韓国では、インターン実習は盛んであるが、工数不足を補うための「アルバイト型」や2・3か月間学生を拘束して、育成よりは選抜していく「採用型」が多く、今回のような「育成型」は殆どない。「韓国によくあるインターン実習と思っていたが、全く違う内容で、人生の素晴らしい経験ができた」と実習生が語っているように、就職のためにキャリア作りを考えていた学生が、各企業で初めて社会人として職場の仲間に入れて頂き、ご指導頂いたことがよい結果に繋がったと思う。

また今回の事業を通し、改めて、韓国の大学生が日本企業についてほとんど知識がないことも分かった。その意味で韓国の大学生が在韓日系企業一員として実際に企業現場で働き、日系企業の活動やその企業理念等を理解したことは、日本を理解する上でも大いに意味があったと考える。

最後になったが、初めて立上げた事業であり、多くの課題があったが、事業趣旨をご理解頂き、韓国の大学生を温かく受入れて頂いた在韓日系企業の皆様方と、一緒になって受入れ企業を探して頂いたSJCの幹部の皆様方に深く感謝したい。また、7月から資金的協力を頂いた韓日産業・技術協力財団にも感謝したい。

